電気設備特記仕様書講習会

PCB保管基準等が改正

県電設協会

県電設協会（栗牧典臣会長）は7日、鹿児島市の市民文化ホールで「電気設備特記仕様書」の講習会を開き、会員ら約350人が改正事項などを学んだ。

今回の講習は、国の電気設備工事特記仕様書の一部改正に伴い、県、鹿児島市の特記仕様書の統一について、協会でも検討委員会を設け発注機関とも協議を重ねてきた。

講演では、栗牧会長が「公共工事を取り巻く環境は厳しいものがある。その中で、公共工事の品質が高いということを実証することが必要。そこで、我々会員も改正される事項などを十分把握し、今後につなげてほしい」と挨拶。次いで、県及び鹿児島市の担当者が特記仕様書改正点等の説明を行った。

この中で、伊地知政勝県設備室電気専門員は改正の中でも支払い、工事写真、完成図、廃棄処理、通信設備の五つに絞って説明すると前置きし、「支払いでは従来の支払い方法に加え中間前金払いが適用されたほか、工事写真では電子媒体、完成図では青焼き以外も適応する。また、産廃処理は水銀等の適正処理、トランスの絶縁に対し処理業者へ委託、PCBの保管の基準なども変わった」と説明した。

真剣に改正事項等を聞く会員ら
＝鹿児島市の市民文化ホールで

イタリア建築フォーラム

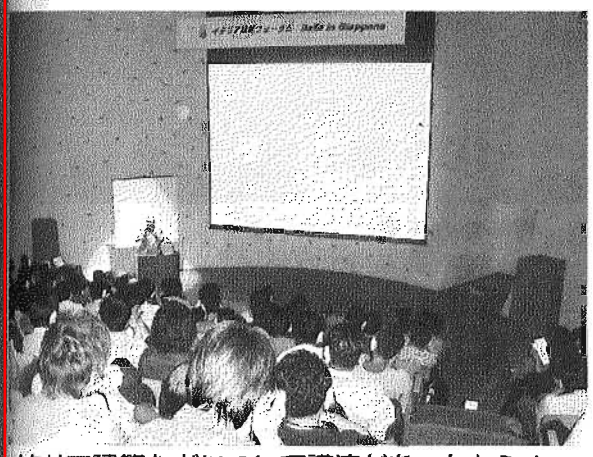
国建築異 街づくりに生かして

イタリア建築フォーラム実行委員会等主催のイタリア建築フォーラム「国際建築セミナー」は7日、鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で講演会を開き、建築関係者や学生ら約200人が出席し、イタリア建築を参考にした日本における建築、都市づくりの在り方などについて学んだ。

同セミナーは、イタリアの文化などを総合的に紹介する大規模なイベント「日本におけるイタリア年」の一環として、建築分野では「イタリアの建築とデザイン－最近の傾向とその目指すもの」とタイトルを掲げ、札幌、東京、神戸、鹿児島の各地でのセミナー開催を企画、鹿児島で最終となった。

当日は、テーマを「独創性とグローバリゼーション」と掲げ、講師にイタリアから3人の大学教授と、谷川逸子法政大学大学院客員教授らを迎え、それぞれ講演を行った。この中で、F・モスキーニ氏（バーリ工科大学教授）はイタリアにおける建築物や整備事業をプロジェクターで紹介しながら「イタリアの建築は国際的価値を持ちながらも認知度は低い。イタリア建築の素晴らしさを理解して頂き、日本における建築や街づくりに生かして頂ければ」と語った。

参加者らは、異国文化における建築の在り方などの深い内容に真剣に聴き入っていたほか、質疑応答では活発な意見交換がなされた。



イタリア建築などについて講演があったセミナー
＝鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で

加治木町建設同志会奉仕作業

堤防清掃等に汗流す

加治木町建設同志会（岩澤隆志会長）は7日、会員44社、75人が参加して、姶良郡加治木町の港町流末排水路及び木田川で毎年恒例となった奉仕作業を実施し、近隣住民に喜ばれた。

当日、加治木港に集合した参加者を前に、築瀬鉄憲副会長は「本日の作業には多くの重機も使用する。日頃の作業と同じく安全には十分注意し、けがなどのないよう慎重に作業してほしい」と挨拶。続いて、川野威朗加治木町長が「町の美化に対する皆様の日頃の協力に感謝している。梅雨を控え、危険個所の整備をしてもらえる事は誠にありがたい。事故のないように気をつけてください」と参加者を励ました。福永和則専務理事が班分けや段取りなどを説明した後、参加者はそれぞれの担当場所へと出発した。

このうち、木田川の高速道路下から網掛川合流地点までの約1キロを担当した班では、高く生い茂った堤防の雑草の草払いや、川に重機を下ろして川底の泥やごみを取り除く作業を行った。また港町流末排水路で伐採や水路整備を行った班も、厚さ30センチ近くも積もった悪臭を放つヘドロを、重機ですくってはダンプに積み込んでいた。

参加者は照り付ける日差しの下、流れる汗をものともせず黙々と作業を続け、昼前になって予定の工程を終了した。参加者の一人、満留利哉さん（満留建設㈲）は「日頃やっていることだから疲れは感じません。町の人達が喜んでくれれば私達もうれしい」と笑顔を見せていた。

炎天の中黙々と作業する参加者
＝加治木町の現地で

喜入中生徒体験学習

目標持つ大切さ教える

アーキBOX経常JV・中釜一級建築設計事務所

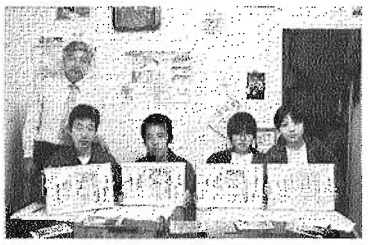
アーキBOX経常JV・中釜一級建築設計事務所（中釜秀志代表）は4日、揖宿郡喜入町の町立喜入中学校3年生の生徒4人を迎え入れ、恒例の1日体験学習を実施。自身の教訓「道を知るより、目標を知らねばならぬ、目標は我が心の灯台なり」を基に、生徒らに夢と目標を持つことの大切さを教えた。

体験学習は、町立喜入中学校（吉之島隆良校長）が、平成14年に受験を迎える3年生を対象に、将来の夢と目標を持ち今後の勉学に生かしてもらうため、町内の福祉施設、スーパー、小売店など、町内の事業所へ依頼し1日体験を実施しているもの。平成9年から既に13人の生徒を迎え入れ、指導している町内在住の中釜代表にも、上堀内健二くん、富山大祐くん、北薗依里佳さん、中村円佳さんら4人の生徒が体験学習に訪れた。

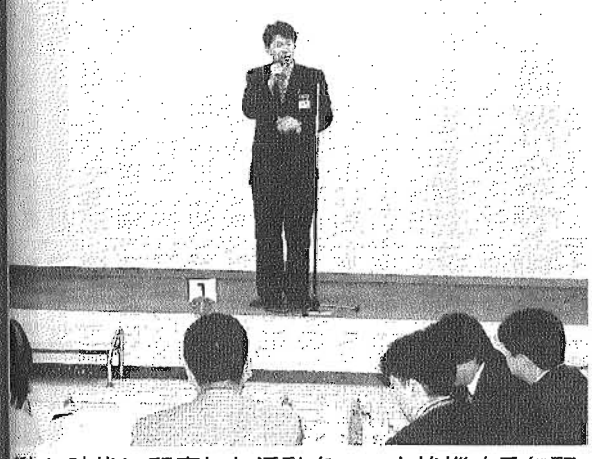
午前中は、喜入町内の事務所で、建築設計という仕事の説明から、生きていくうえでの人間関係の大切さ、働くことの意義など、自身の教訓を基に、自らの経験談などを含めて教育。その後、同町中名の喜入団地県営住宅建設現場では、喜入町建設課の職員らも合流して視察。初めて見学する建設現場に、生徒らは興味深げに見入っていた。

昼食後、事務所に戻って図面作成を行い、生徒らは初めて扱うCADに戸惑いながらも、各々が頭に思い描いた図面を作成。最後に中釜氏から、生徒ら一人ひとりに1日体験学習修了証書が手渡された。

今回、体験学習した中村さんは「設計にはもともと興味はありましたが、難しいと思っていた建築設計の仕事が、1日体験してより身近なものに感じました」と語った。



中釜代表と共に、修了証書を手に写真に納まる生徒＝喜入町の同事務所で



新しい時代に即応した活動を――と挨拶する矢野理事長＝鹿児島市のジェイドガーデンパレスで

メディア懇談会

未来像等で意見交換

鹿児島青年会議所

鹿児島青年会議所（矢野健理事長）は6日、鹿児島市のジェイドガーデンパレスでメディア懇談会を開き、県内のテレビ、新聞、行政等の報道・広報関係者を招いて意見交換や今後の鹿児島の在り方などについて懇談した。

冒頭、挨拶に立った矢野理事長は「W杯で日本中が湧き上がっている中、鹿児島も新幹線開通などを控え活気が予想される。我々も創立48年目を迎えるが、いろいろな意見を賜り、新しい時代に即応した活動を推進していきたい」と抱負を述べた後、岩元文雄広報委員長が同会議所の活動内容や役員を紹介した。

懇談会では、和やかな雰囲気の中、鹿児島青年会議所から今後の鹿児島の在り方や未来像、同会議所に対する要望など意見交換がなされたほか、会員らで構成される地域ネットワーク委員会や夢のあるかごしま開発委員会など10委員会の事業方針なども報告された。

矢野理事長は「若いエネルギーと柔軟な発想が最大の武器。鹿児島の情報発信を担うメディアの方々からきたんない意見を頂き感謝している」と語った。